

工業倶楽部

56

2015年7月



KAGOSHIMA INDUSTRIAL CLUB

■発行：(公社)鹿児島県工業倶楽部 ■企画・編集：総務・広報委員会 〒892-0821 鹿児島市名山町9-1県産業会館内
TEL099-225-8012 FAX099-225-8020 <http://www.ikic.or.jp> E-mail:info@ikic.or.jp



平成27年度 公益社団法人
鹿児島県工業倶楽部通常総会
事務局からのお知らせ
来春の採用枠の確保について
新会員情報
若手経営者・後継者紹介

PICK UP

「世界文化遺産」
「知財総合支援窓口のご案内」



平成
27年

公益社団法人

鹿児島県工業倶楽部通常総会

◆日時 / 平成27年5月27日(水) ◆会場 / 城山観光ホテル(ロイヤルガーデン)

平成27年5月27日(水)、城山観光ホテル(ロイヤルガーデン)において、多数の来賓ご臨席のもと、平成27年度通常総会が開催されました。平成26年度事業報告及び決算の承認、27年度事業計画等の報告などを行いました。

会長挨拶

(公社)鹿児島県工業倶楽部

会長 岩元 正孝



経済の状況を見ますと、日経平均株価が昨今15年ぶりのレベルになっています。ひるがえって考えてみますと、2011年10月、ドル円のレートが70円台をつめました。このレートになるとたまらないということで日本の製造業がいっせいに海外に投資したことにより国内の需要が著しく減少しました。需要が減少したので雇用は下がる、スキルは下がる、イノベーション欠乏症ということで、大変長いこと産業の空洞化により苦しんでいましたが、ご案内のとおり昨日は円ドルが123円、124円というところまできました。

70円台と124円を比べてみますと、165%という為替相場になります。海外の方が日本に來まして1泊1万6千5百円のお部屋に泊まると日本人にとっては1万6千5百円ですが、海外の方からみると1万円にしかひびかないということになります。

円ドルが124円になりましたので、さあもう一度元気をだして日本経済やっぺいこう、輸出をしようという単純な話になるかという、なかなかそこまで単純ではないかもしれません。

産業革命をリードしたイギリスがもとに戻る、あるいはGMやフォードがデトロイトで頑張ってもとに戻るというふうに考える方がいらっしゃらないように、やはり日本も2011年以前の日本の姿に戻っていくということはないんだろうと思います。

何か違った付加価値をつけていかなければいけない。違った付加価値をつけるなかで、我々にとっては1万6千5百円の収入

かもしれませんが、支出される方にすれば1万円の出費ですむということがあるだろうと思います。

さて、我々の体は日々毎日新陳代謝をしております。新陳代謝をしておりますので4～5日前の自分とは変わってきているはずでございます。よくご挨拶で、お変わりございませんかと、お変わりなくてご同慶のいたりという話なんですけど、けっしてそんなことはなくて、相当の部分が変わっていくというのがこの世の中なんだろうとそういうふうに思います。

公益社団法人鹿児島県工業倶楽部には格段の変化がありました。平成27年度特許等取得活用支援事業に係る知財総合支援窓口を受託いたしました。このことで、従来の工業倶楽部の活動に加えて、知財に関わる業務をやっていきますので、このことによる相乗効果も今年につきましてはいろいろと期待していきたいと思っています。

只今の知財の件で本日は、「中小企業・地域知財支援の最新動向」というテーマで、九州経済産業局地域経済部技術企画課特許室長の横田さまにお話を伺います。

もう一点、鹿屋市串良町柳谷自治公民館長の豊重さまに、「行政に頼らない地域おこし」ということでご講演を賜ります。先日蒲生のほうで、韓国との国際交流をやっているお話を聞かせていただく機会がありました。なんでうまくいっているのか、行政が関与していないからだということでした。いろんな事業をやっていくのに、行政の補助をいただいてやっていくのとはいいかれないでやっていくというのは、入口において格段の差があるように思います。

そういった意味で、ぜひ本日は豊重さまのご講演を聞かせていただいて、これからの工業倶楽部あるいは皆さんそれぞれの企業の今後の参考にさせていただけるのではないかと考えております。先ほどから株価あるいは風が変わったということで、新しい状況の中で蒔き直しを図っていかなければいけないなというふうに考えております。ぜひ恰好よくいきましょう。よろしく申し上げます。

来賓挨拶

国立大学法人鹿児島大学

学長 前田 芳實氏



鹿児島県工業倶楽部様におかれましては、平成3年4月1日の法人設立から24年間、県内の産業振興と地域経済の発

展に、大きく貢献してされました。工業倶楽部様と鹿児島大学との協力関係は、とりわけ平成17年度の包括連携協定締結を契機により深くなっており、産学交流と学生支援に多大なご支援をいただいております。

平成23年度から共同で開催している「食と健康に関するシンポジウム」は、本学の重点領域研究である「食と健康プロジェクト」の事業の研究成果の公開の場として、これまで4回開催しております。お陰様で例年、多くの市民にご来場いただき好評を博しております。

また、学生支援については、地域に貢献する研究業績を挙げ

た大学院生に「鹿児島大学工業倶楽部賞」を授与いただき
ており、学生の大きな励みになっております。鹿児島大学は、地
域の活性化に役立つ人材を育てるためには、学生を地域の中
で教育することが重要でありますので、地域や産業界にもメリッ
トのある教育制度やインターンシップ等の仕組みづくりを推進して
参りますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採
択され、かごしまCOCセンターを新たに設置し、「地域活性化
の中核的拠点」として、これまで以上に地域に根ざした大学づ
くりを推進して参る所存です。さらに、現在文部科学省の平成
27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業:いわゆ
るCOC+(プラス)」の申請に向けて、鋭意作業を進めていると
ころであります。本事業は、大学、自治体、企業、金融機関等と
協働して鹿児島地域が求める人材を養成し、若年層の地元定
着を推進するものであり、工業倶楽部様には、これまで以上のご
支援とご協力を賜りながら推進して参りたいと考えております。

また、平成19年に制定されました鹿児島大学憲章の基本目
標である「地域社会の活性化に貢献」また社会に開かれた大
学を推進するものとして本年4月に国際島嶼教育研究センター
の奄美分室を設置いたしました。奄美群島の拠点となる新たな分



室は、鹿児島大学の機能強化の一環として奄美群島における
地域活性化の中核拠点として教育研究ならびに社会貢献を推
進し、地域の課題を解決する方向で今作業を進めています。
地域の課題としましては、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー
の5つの領域に重点をおきまして地域社会と連携して、学部間
の枠を超えた全学横断的な研究活動を積極的に推進しておりま
す。共同研究や技術相談だけでなく、経営課題や地域の活性化
などさまざまなことからの悩みの際には、鹿児島大学をお気
軽にご活用くださればと思います。

来賓挨拶

鹿児島県商工労働水産部

部長 武盛 武士氏



現在の世界情勢、ギリシャやスペインの不安に端を発したユー
ロ安ドル高の余波が円にも及んでいるという状況の中、1ドル125
円をも想定したドル買いの動きとなっているようです。

輸出型産業の皆さまにとっては追い風かと思いますが、日常生
活への影響も懸念されるところです。

さて、鹿児島に眼を転じますと、本県の人口は残念ながら170
万人を割りました。今後30年間でさらに40万人減るという予測
があります。

他方アジアでは、2050年まで人口が増え続け、世界のGDPの
半分はアジアが占める時代がくると言われています。このような
中、鹿児島は地理的に我が国におけるアジアの玄関口であり、3
0年後の鹿児島の活力を維持、更には活力を増していくために
はアジアの活力を取り込んでいく必要があります。

今でも多くの観光客の皆さんが直行便を使って鹿児島にお見
えになっておりますが、まだまだ鹿児島にたくさんお越しいただ
いて鹿児島の農林水産物の特産品を購入していただくとともに、ま
た一方では、製造業の皆様の製品をアジアにどんどん輸出し鹿
児島の活力を一層高めていきたいと考えております。ぜひとも皆
様には、30年後の自らの子供や孫の代の鹿児島のために、今頑
張りどころということでお力添えをいただきたいと思ひます。

県におきましても、「新時代に対応した戦略的な産業おこし」を

県政の柱と位置付け、本県産業振興の重点業種である食品関
連産業の振興を図るため、食品関連産業振興プロジェクトによる
総合的な支援を実施しているほか、地域産業を牽引し、次世代
を担う若手経営者の人材育成として、かつての薩摩藩にならった
郷中塾なども開催しております。

製造業の振興につきましては、皆様方が日頃から取り組んでお
られる活動や実践を通じた貴重なご意見を参考にしながら、本
県の産業施策に反映し、皆様に喜んでいただけるように頑張りた
いと思っておりますので、何とぞ、私どもの施策をご活用いただき
ますようお願い申し上げます。

通常総会講演会

特別講演



講師

九州経済産業局 地域経済部技術企画課
特許室長 横田 之俊氏

演題

「中小企業・地域知財
支援の最新動向」

記念講演

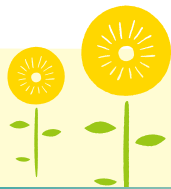


講師

鹿屋市串良町柳谷自治公民館(やねだん)
自治公民館長 豊重 哲郎氏

演題

「行政に頼らない地域おこし」



事務局からのお知らせ



84プラザ

7月8日(水)にソフトプラザかこしまで開催。鹿児島大学農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター玉置尚徳教授の「焼酎を造る微生物」についての講演の後、懇親会では、参加者全員の3分間スピーチや講師との意見交換が行われました。

(出席会員)竹田靖史、吉田透、黒木樹朗、富永茂人、鮫島吉廣、門久義、鳥野ユリ子、神園俊一、長野正信、小峯修一、森重匡世、寶来豊晴、瀬崎俊広、松下清志、堀内明人(会員外)永田行博(元鹿児島大学学長)、玉置尚徳、事務局 (敬称略)



八日会

7月9日(木)にレクストン鹿児島で開催。意見交換会では、父親を前にしての若手経営者の所信表明もあり、大いに盛り上がりました。

(出席会員)川崎暢義、田中高逸、小田正弘、小田伸、萩原麻維、木村由美子、松下謙一、黒田清忠、藤井孝明、堀内明人、川田暁史
(会員外)歌枕歩、事務局 (敬称略)



プラザいもづる

7月10日(金)に鹿児島大学で開催。理学部生命化学科の内海俊樹教授にお願いし、「植物を有効に育てる根粒バクテリア菌など」について解説していただきました。今回は岩元会長にも参加していただき、充実した会となりました。

(出席会員)岩元正孝、本村嘉啓、中崎宗治、遠矢良太郎、榊原邁
(会員外)内海俊樹、山口昇、新森和江、田知行義仁、横山由起子、新山庄一、榊原恵子、大学生10名、事務局 (敬称略)



来春の採用枠の確保について

6月1日(月)に、鹿児島労働局、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿児島市から、来春の新規学卒者の採用枠の確保について要請がありました。以下、工業倶楽部へお見えになった方々です。

- ・鹿児島労働局(岩崎修局長)
 - ・鹿児島県(武盛武士商工労働水産部長)
 - ・鹿児島県教育委員会(古川仲二教育長)
 - ・鹿児島市(山下正昭経済局経済振興部長)
- (応対者:岩元正孝会長)



新会員情報

会員名

アサダメッシュ株式会社
鹿児島工場

所属・役職

所属・役職 上席執行役員 工場長
富森 栄充



- 住 所 〒895-1504 薩摩川内市 祁答院町黒木6165番地
- T E L 0996-55-0204
- F A X 0996-55-1253

当社はファインメッシュ界のリーディングカンパニーとして、昭和15年(1940年)の創業以来75年にわたってさまざまな産業分野への貢献を目指してまいりました。

これまで私共が培ってきた伝承の織り技術が、近代産業社会で生き続けていることに誇りを感じております。

また、当工場は昭和49年(1974年)に設立し、今ではアサダメッシュグループ全体のファインメッシュ生産量の80%をカバーする基幹工場です。

これからも常に最先端技術の動向に目を向けながら、お客さまのニーズを的確に捉えた高品質・高付加価値製品の開発に挑戦し、ご満足いただける商品を提供させていただきたいと考えております。

地域の未来を創る、次代を担う若手経営者・後継者紹介

先達の開拓精神や生業を通しての好奇心が今を創り、その姿を通して、新しい物づくりへまた挑む日々！

そんな気概のあるお話を今回文字に表現できない程賜りました。

辛酸・苦悩・光明、涙とたくさんの汗。一層の飛躍・成長を託して次の代へ。

(株)丸松

専務取締役 松下 耕平 (39 歳)

当社は昭和30年(1955年)のふとん店創業以来、枕づくりを始めて60年になります。

お客様のご要望に合った枕を、自社のノウハウをバランス良く組み合わせて開発・製造しております。

お客様に、「これがあって助かった」と感じて頂ける枕を目指し、快適な睡眠を提供するために、これ

からも常にニーズの多様化に合わせた商品開発と製造に取り組んでいきたいと考えております。

座右の銘でもある「謙虚、誠実、迅速」を常に心がけ、国内法人様への需要拡大に一層励み、ご満足いただける商品を提供させていただきたいと思っております。

【座右の銘】謙虚、誠実、迅速

【趣味】読書



松下 謙一 社長



オリジナル枕・SP 商品



松下 耕平 専務



今人気の
オリジナル枕

株式会社 丸松

〒892-0875 鹿児島市川上町630
TEL 099-243-4800 FAX 099-243-3300
HP URL <http://www.k-marumatsu.co.jp>
MAIL marumatsu@k-marumatsu.co.jp



小田 辰郎 専務(左)と小田 伸 課長(右)



小田 正弘 社長

(有)仙夢

営業課長 小田 伸 (42 歳)

当社は大正7(1918)年に小田 豊店として創業者小田仙兵衛が現在地に開業し、その後小田豊商会に法人化。昭和55(1980)年、現社長小田正弘が就任し、有限会社「仙夢」を設立しました。

畳業界が厳しい状況に立たされる中、平成8(1996)年畳表に印刷する方法を開発、平成18(2006)年には水洗い可能な畳を開発、介護・福祉施設など様々な分野に進出し、多業種・産業のお客様と共に

喜ばれる畳製品づくりにまい進しております。

新しい商品の開発において、畳というアイテムからはずれないようにする事と、お客様のご要望に合った製品づくりを常に心がける事を念頭に置いて精進し、これからも新しい商品開発や、畳を世界のマーケットで通用するような商材へ成長させるよう、日本一の畳店を目指して頑張ります。



風呂場に敷かれた洗える畳



畳を使用した様々なオリジナル製品

【座右の銘】因は我にあり

【趣味】スノーボード、料理

有限会社 仙夢

株式会社 小田豊商会

〒892-0838 鹿児島市新屋敷町5-17
TEL 099-222-3224 FAX 099-222-3233
HP URL <http://www.tatami1.com>
MAIL info@k-martatami1.com



日本のものづくりの先駆け「集成館事業」 世界文化遺産登録決定！

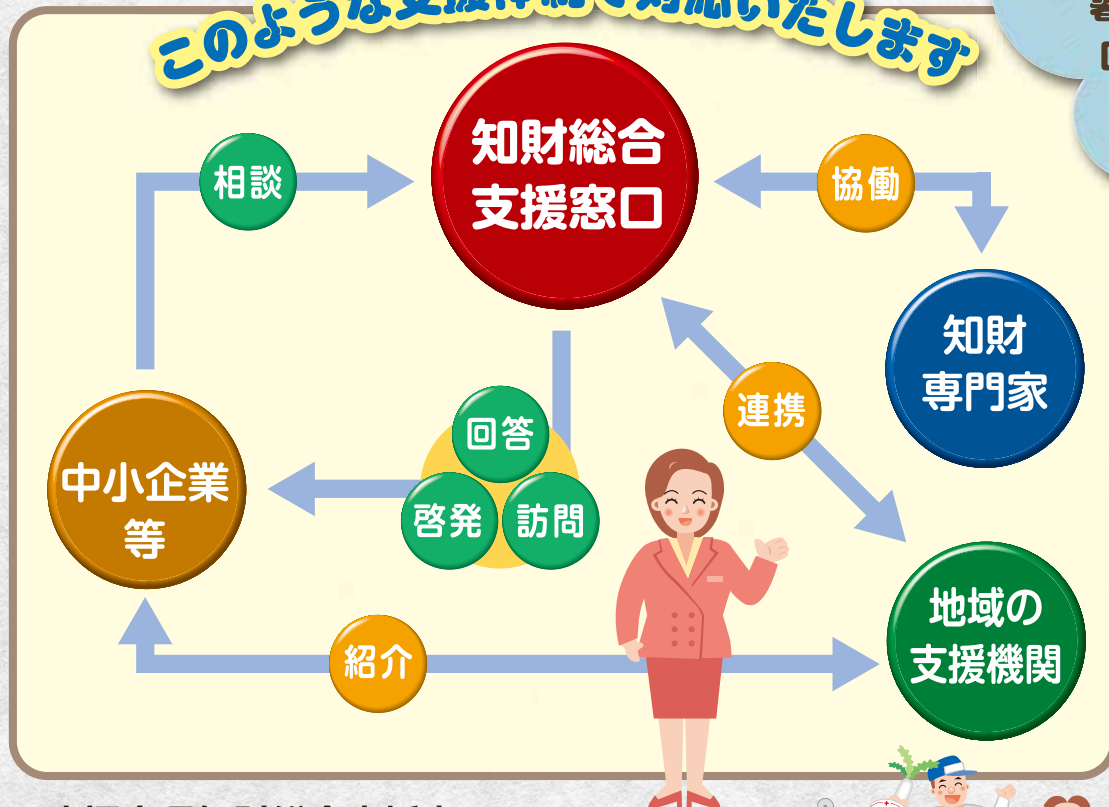
幕末期の開明君主・島津斉彬は、近代化の必要性をいち早く認識して「集成館事業」に着手し、反射炉の建造や工場の機械化など、後に日本が急速な産業化を遂げるための礎を築いていきました。

現在、鹿児島には、「旧集成館機械工場」や「旧鹿児島紡績所技師館」を含む「旧集成館」と、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」の3つの資産があり、これらを含む「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録が、7月5日、ユネスコの世界遺産委員会において決定されました。

知的財産でお悩みの中小企業・個人事業主・創業予定の個人の皆様
知的財産に関することなら何でもご相談ください!!

知財総合支援窓口のご案内

このような支援体制で対応いたします



特許権

意匠権 商標権

実用新案権

営業秘密・ノウハウ

著作権 育成者権

回路配置利用権

知的財産

相談
無料

秘密
厳守

訪問
相談

■鹿児島県知財総合支援窓口

〒892-0821 鹿児島市名山町9番1号 (県産業会館中2F)

TEL:099-295-0270 FAX:099-295-0274

E-mail:chizai@ikic.or.jp

【実施機関】公益社団法人 鹿児島県工業倶楽部

